

独立行政法人国立オリンピック 青少年総合センター

(報告者 桜庭 望)



概要

実施機関： 国立オリンピック記念青少年総合センター
事業名： 平成16年度主催事業

青少年教育実践 e-研修

講師： 外部講師を選定して依頼

(国立青少年センターの各種講座講師)

受講者： 青少年教育指導者(施設、団体等)

修了のメリット： 実技研修参加の必須条件(2講座)

4講座を開設 (定員)

サイエンスサポートセミナー(30名)

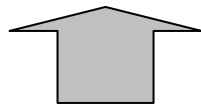
アイスブレイク入門講座(30名)

環境教育入門講座(15名)

自然体験活動実践事例講座(10名)

eラーニングの利用分野

青少年教育施設における 指導者研修(モデル事業開発)



「青少年教育施設におけるIT(情報通信技術)を活用した
学習プログラムの在り方に関する調査研究」の一環として実施

国立オリンピック記念青少年総合センター

主催事業として平成16年度は17本の事業展開

平成15年度よりeラーニングによる

指導者研修事業を実施





活用しているメディアと通信方法

インターネット

eラーニングシステム



ようこそ青少年教育実践e-研修へ
青少年教育における様々な課題についてインターネットを通じて学習します

ログイン

<http://nyc.shiminjuku.com/>

- トップページ
- 青少年教育実践e-研修のご紹介
- 講座ガイド

【講座ガイド】

- サイエンスサポートセミナー2004
- アイスブレイク入門講座
- 環境教育プログラム入門講座
- 自然体験活動実践事例講座

他サイトの講座案内
とやまインターネット市民塾

お知らせ

アイスブレイク入門講座、自然体験活動へようこそ。

申し込み手順はこちら(募集は終

講座を受講されたい方は、

- 1.利用登録・システムへの登録
(サイエンスサポートセミナーのID)
- 2.ログイン・システムへのアクセス
- 3.受講申込・講座の申し込み
- 4.プロフィール入力・必要事項を記載のうえ、追加の申し込み

の手順で参加申し込みをすることができます。
応募者多数の場合は抽選となりますので、受講決定の通知をお待ちください。

※登録アドレスは、携帯電話は使えません。また、学習はPCで行うので、組織の代表アドレスはお使いになりませんようお願い致します。

インターネット市民塾(富山)のシステムをベースとして展開

WBT (Web Based Training)

電子掲示板等を含む

電子メール、メーリングリスト



活用されるeラーニングの機能

・ユーザー認証

ログイン
(ID、パスワード)



・教材提供
(Webテキスト、動画、PDF教材)

・掲示板

講座テキスト
による学習

・メーリングリスト

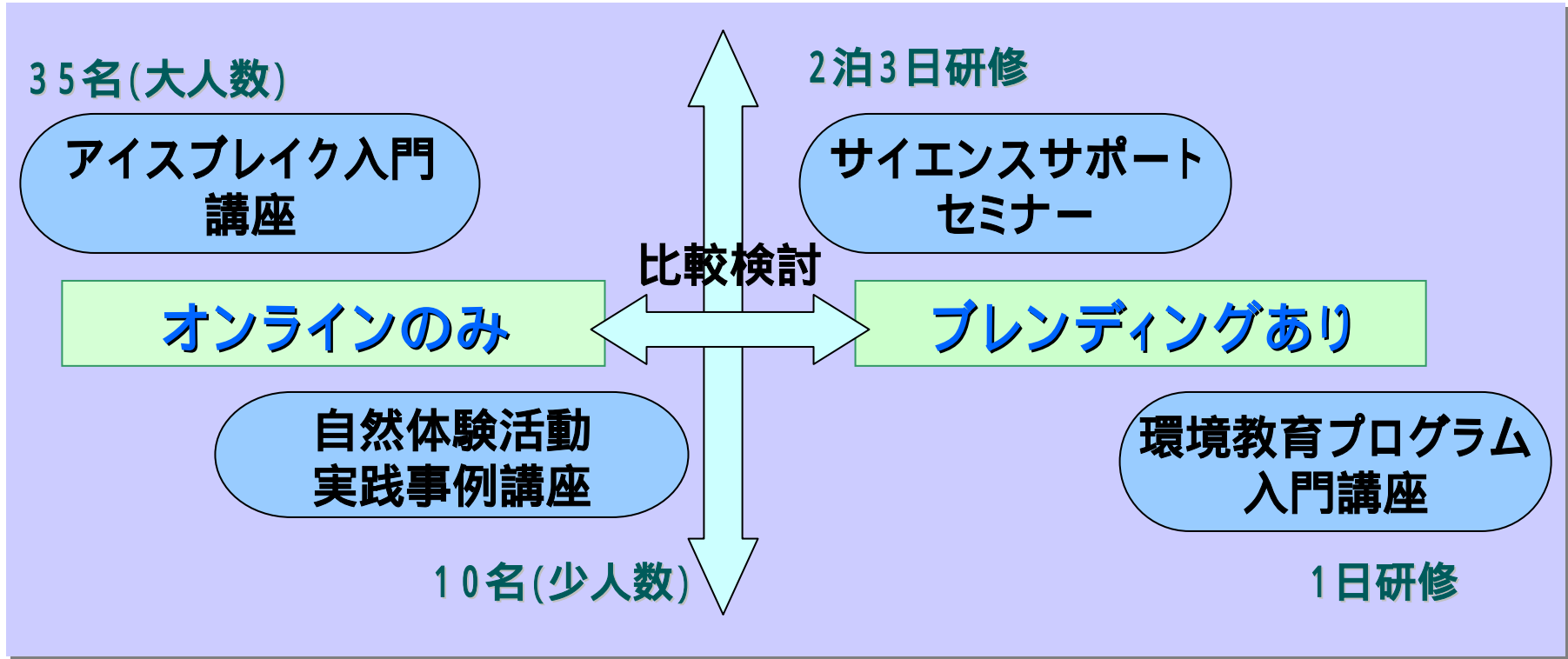


掲示板

講座の展開

異なる展開の4講座

(財)日本視聴覚教育協会



学習集団としての学習効果、
コミュニケーションの展開方法、
学習効果をもたらすプログラム開発などを研究

「青少年教育施設におけるIT(情報通信技術)を活用した
学習プログラムの在り方に関する調査研究」の一環

ブレンディングによる展開

サイエンスサポートセミナー 学習用Webコンテンツ

事前研修を必須条件とする

構成	内容
はじめに	サイエンスサポートセミナーについて
第1回 (8月20日～)	「科学の基本的概念・方法の学び方」 ティーチング・キッズ 古川 和
第2回 (8月30日～)	「科学体験学習プログラム指導法(1)」 慶応義塾幼稚舎教諭 相場博明
第3回 (9月10日～)	「科学体験学習プログラム指導法(2)」 NPO法人ガリレオ工房 高橋和光
実技研修	国立青少年総合センターで実施
事後研修	掲示板による情報交流

事前
研修
1
ヶ月

メールニュース
による情報提供

掲示板による
情報交流

課題への
取り組み

2泊3日実技研修

(9月18日～20日)

中学生への実践指導

メンタリング

Internet Explorer

ファイル(F) ツール(T) ヘルプ(H)

リンク >>

NYC Science Support Seminar

SSS News Letter

受講状況

事前連絡

課題等の情報

No	発行日	
1	◆SSS NewsLetter No.1 08/19発行	<ul style="list-style-type: none"> ■01:<お知らせ>講座開設します ■02:<アクセス方法>受講サイトのアクセ ■03:<学習内容>「海流はなぜ起こるか」
2	◆SSS NewsLetter No.2 08/20発行	<ul style="list-style-type: none"> ■01:<お知らせ>「海流はなぜ起こるか」24日・火曜日より ■02:<掲示板>ぜひご利用ください ■03:<情報>参考サイト「子ども放送局」より

ニュースレターによる情報提供

4	◆SSS NewsLetter No.4 08/31発行	<ul style="list-style-type: none"> ■01:<お知らせ>「海流はなぜ起こるか」公開します ■02:<アクセス状況>19名完了 ■03:<掲示板>書き込み第1号は小松さん
5	◆SSS NewsLetter No.5 09/08発行	<ul style="list-style-type: none"> ■01:<アクセス状況>28名完了 ■02:<宿泊について>宿泊されない方、連絡ください ■03:<掲示板>自己紹介よろしくお願ひ致します
6	◆SSS NewsLetter No.6 09/10発行	<ul style="list-style-type: none"> ■01:<第3回>高橋講師「圧力の科学」 ■02:<掲示板>自己紹介よろしくお願ひ致します ■03:<アクセス状況>29名完了
7	◆SSS NewsLetter No.7 09/14発行	<ul style="list-style-type: none"> ■01:<お知らせ>受付と持参する物について ■02:<お願ひ>ペットボトル収集のご協力について ■03:<中学生の申し込み書から>
		<ul style="list-style-type: none"> ■01:<お知らせ>高橋先生のプロフィールとワードのテキストファイル

掲示板 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) リンク >>

市民塾掲示板

情報交換

2/3ページ [前のページ](#) [次のページ](#) [最新に更新](#) [新規投稿](#) [検索](#) [投稿順表示](#)

【00024】 [ワクワク! ♪☆?☆](#)

【00023】 [よろしくお願ひします。](#)

【00018】 [こんにちは、・・・圧力について、とりあえず、PDFに*](#)

- ↳【00020】 [和光先生! 覚えていらっしゃるのでしょうか? 覚えにくい名前の鹿角](#)
- ↳【00021】 [Re:和光先生! 覚えていらっしゃるのでしょうか? 覚えにくい名前](#)
- ↳【00022】 [Re:こんにちは、・・・圧力について、とりあえず、PDFに](#)

【00017】 [こんにちは自己紹介です](#)

【00016】 [今晚は、自己紹介させていただきます](#)

【00015】 [はにゆたす](#)

【00018】 [こんにちは、・・・圧力について、とりあえず、PDFに](#)

投稿者 : 高橋和光 [2004/09/11 00:01:16]

みなさんこんにちは
 講師を務めることになりました、高橋和光です
 ガリレオ工房、発見工房クリエイトなどで科学体験活動の指導員をしています。
 ふだんは、都内の夜間中学校で理科の教員をしています。
 また、「せたがやだいた自然科学教室」を開いて、月に一度小中学生と実験で楽しんでいます。幹事をしています。

私の写真をプロフィールに載せることになっていますが、適当なのが現在ないので、小さいころの写真を掲載します。これでいいでしょうか。事務局の桜庭さんが「だめ」と言ったら、写真をとっておこうと思います。18日に顔が見えますので、それまでお楽しみでどうでしょうか？

時間ができたら、また書き込みします。
 実験の絞込みができていないので、思案しています。最終電車に間に合わなくなるので、とりあえず、これまで。

掲示板による受講者間、 講師との情報交流

モチベーション維持ための工夫

課題 (宿題・レポート)

単にWebテキストを読むだけで終わらないようにするために、

課題提出によるステップアップ

メールによる課題催促



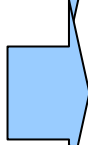
■ 課題提出期日を忘れないよう3日前や1日前などのお知らせ

課題提出方法の工夫



■ メール、掲示板、レポートシステム等、課題に応じた方法で対応

講師による提出課題の評価



■ 適切なコメント等で、受講者の意欲が高まるようにする

受講者による相互評価



■ 受講者同士の交流によって、学習効果を高める

課題のレベルの見極め

受講者に適したレベル、期間、量の設定

困難



受講者が取り組みやすい課題設定

学習効果を期待する量、質



気軽

(ドロップアウト対策必要)

学習効果

事前研修の成果(受講者の声)

- ・基礎知識を得てから参加ができ、良かったと思う。
 - ・セミナーへの意欲をかきたてた。よい方法だと思う。
 - ・この形式は時間的制約が弱く、とても良いと思う。
マイペースで学べる。
-
- ・コンピュータの故障により、参加がうまく出来なかった。
 - ・事前の宿題をネット上で話し合うなどを充実させると
もっと良いかもしれない。
 - ・具体的な指導方法、課題等も入れていただけると良い
のではないか。資料系が多くてよい。

など

受講者
アンケート

事前研修実施時には、コンテンツや学習法の評価は高いが、実技研修実施時にイメージが薄れる傾向

事前研修

実技研修

事後研修

インターネットによる事前研修のイメージ

Webテキスト

実験手順動画



実践の蓄積

技術的な研修

STEP 1
知識習得

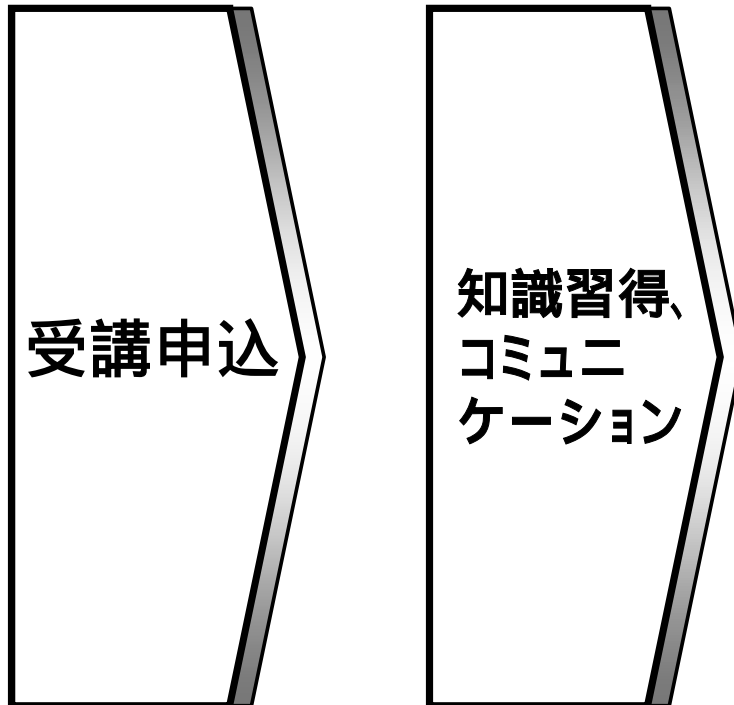
STEP 2
技術習得

STEP 3
実践による定着

ブレンディングの際には、インターネット学習の意義付け必要
実技研修の際に知識の確認を行う

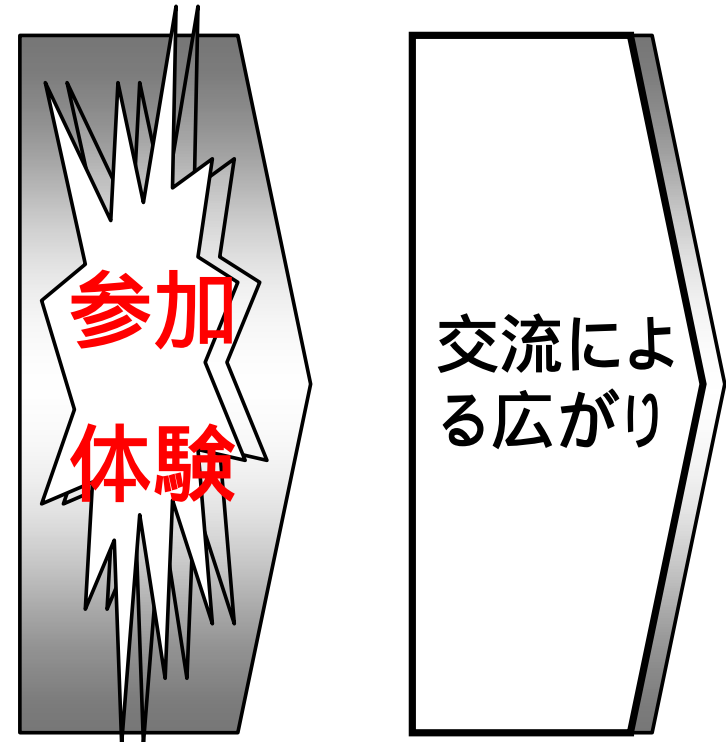
知識・技術習得型プログラム

- ・ 意欲喚起
- ・ 参加者レベルの統一化
- ・ 発想法、思考法の習得



技術習得

参加者間の学び



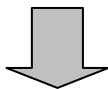
各課題

<p>セッション2 12/18-11/28 アイス ブレイキングング とは</p>	<p>講義要旨を読んで、貴方の考えや感じたことを簡単に述べてください</p>
<p>セッション3 11/29/12/10 アイス ブレイキング の実際</p>	<p>動画コンテンツを見て、貴方の考えや感じたことを簡単に述べてください</p>
<p>セッション4 12/11-12/21 アクティビティ の作り方</p>	<p>効果的なアイスブレイクの時間を組み立ててください。</p>
<p>セッション5 12/22-1/13 オリジナル アクティビティ をつくろう</p>	<p>オリジナルのアクティビティを作ってください。</p>
<p>セッション6 掲示板</p>	

講師による提出課題へのコメントバック

講師

- 2名の講師で35名の受講者に対して4つの課題のコメント



講師の負担増

事務局

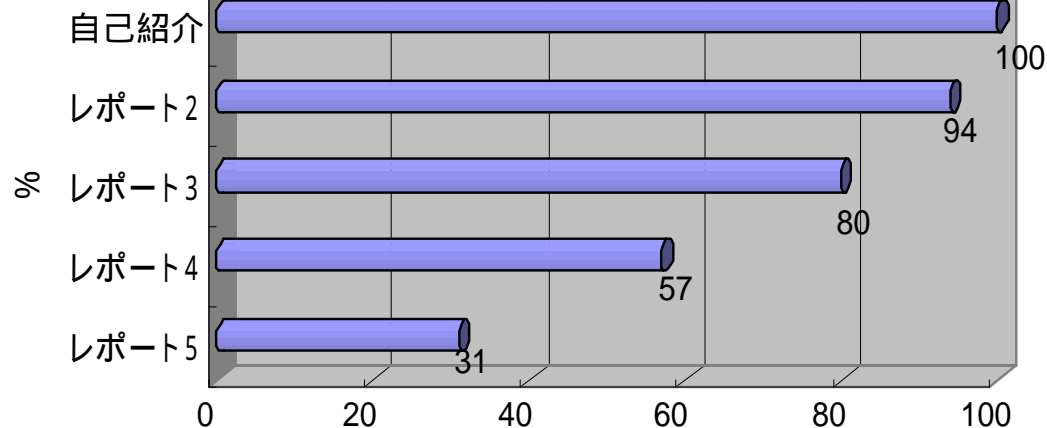
- 進捗管理やメンタリング等の負担増

受講者

(財)日本視聴覚教育協会

- セッションが進むにつれ、ドロップアウトが増える

課題提出



トータル管理を行うことのできるeラーニングシステムの必要性

時間、距離、場所にとらわれないシステムであることから、学習のリカバリーが可能となるように考慮する

セッション6
1/14-1/25

評価とまとめ

受講の成果を
掲示板で共有

オリジナルアクティビティを作ろう

[1/2ページ](#) [前のページ](#) [次のページ](#) [最新に更新](#)

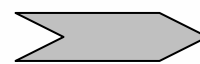
- 【00025】 [Duepeの企画](#) *
- 【00024】 [にくの企画](#) *
- 【00023】 [よこたの企画...](#) *
- 【00016】 [「オリジナルのアイスブレイクを組み立てよう」課題5](#) *
- 【00015】 [ばたこの企画](#) *

【00015】 [ばたこの企画](#)

投稿者 : [ばたこ](#) [2005/01/20 18:16:13]

こんにちは、ばたこです。
私は、「アイスブレイキング」というものが、何であるのか分かってい
話し合いを中心にしたアイスブレイキングで、すごく静かなアイスブレ
いな、と考えます。
講習の中では、1番の新参加者ですが、いろいろと勉強させていただき
よろしく申し上げます。

添付ファイル
[ばたこの学び](#)



レポートの添付

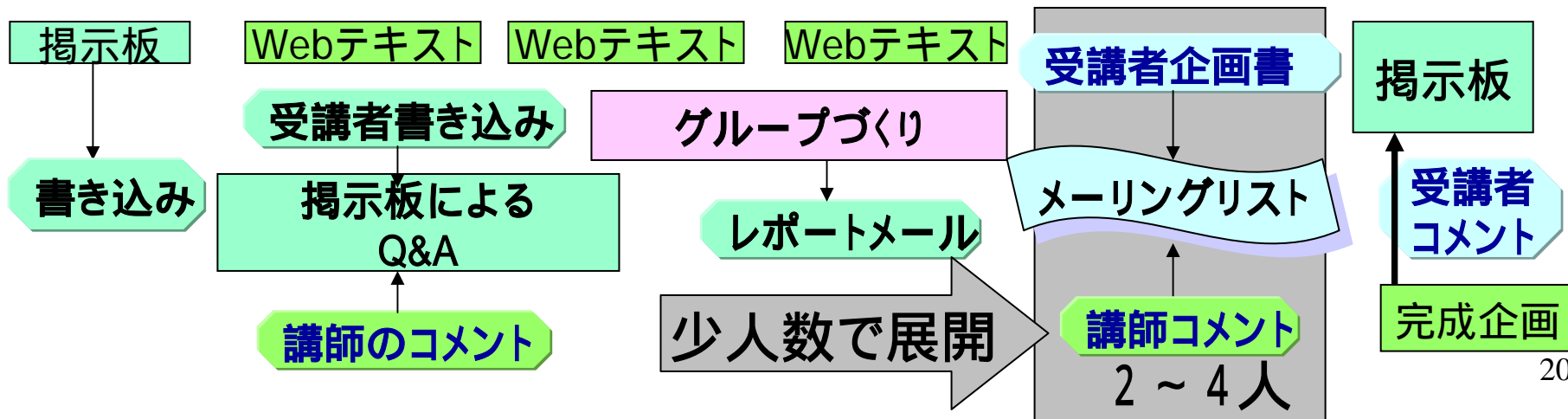
受講者間での学習を継続

少人数グループによる学習

自然体験活動実践事例講座

講師：平野吉直(信州大学教授)、野口和行(慶応義塾大学講師)、
鶴川高司((有)掌・代表取締役)、岡村泰斗(奈良教育大学助教授)
受講者：11名 期間：2004年11月10日から2005年2月10日

セッション1 11/10～18	セッション2 11/19～	セッション3 11/29～	セッション4 12/27～	セッション5 1/13～	セッション6 1/25～
自己紹介	自然体験活動 の意義と背景	企画の仕方	企画の実際	企画の リデザイン	企画の完成と 相互評価



Q&A掲示板による質問 (受講者の意識、ニーズ把握)

(財)日本視聴覚教育協会

受講者質問

講師回答

Q&A

1/2ページ [前のページ](#) [次のページ](#) [最新に更新](#)

- 【00023】 [野口先生 Q&A回答ありがとうございました](#)
- 【00022】 [「企画する」を読んで。](#)
 - ↳ 【00024】 [自分のねらったゴールに誘導すること](#)
- 【00010】 [「企画する」を読んで、ぜひ、教えてください](#)
 - ↳ 【00025】 [Re:「企画する」を読んで、ぜひ、教えてください](#)
- 【00009】 [「企画」への質問](#)
 - ↳ 【00017】 [Re:「企画」への質問](#)
- 【00008】 [「企画する」ことに関する質問](#)
 - ↳ 【00011】 [企画・会議・発想に関する進行方法](#)
 - ↳ 【00012】 [スタッフに関すること](#)
 - ↳ 【00016】 [Re:「企画する」ことに関する質問](#)
 - ↳ 【00020】 [安全について](#)
- 【00007】 [「企画する」を読んだの質問など](#)

3人の講師による
13項目への回答

【00021】 マーケティングリサーチの方法、 それをコンセプトワークにつなげる手法

投稿者 : 野口和行 [2004/12/21 17:46:58]

青年教育に関する社会や対象者が求めているニーズを探るための「マーケティング・リサーチ」の方法とその分析の方法について…

マーケティングという言葉は、もともと商品の流通に関わる活動として研究がスタートしました。やがて、どのような製品をつくるべきか、広告をどのようにするか、価格はいくらし、どの販売店で売のかなどというような企業活動をさすようになります。現在では病院、学校、施設、NPOなどの非営利組織にも応用されるようになっていきます。その上で簡単にマーケティングを定義すると、「顧客のニーズを満たすために組織が行う一連の活動」という事になります。自然体験活動の企画においてもマーケティングの視点が必要であることは鶴川さんの資料にあるとおりです。

受講者11人で展開

メーリングリストによる企画のリデザイン

グループワークの展開
3グループのメーリングリスト

1月13日～25日

企画の添削、受講者による再提出の繰り返し
合計41本のメール

<集中講義>
A受講者 3時間で12の質問と講師回答
B受講者 3時間で6の質問と講師回答
合計36本のメール

地域型
野口講師
受講4名

施設型
岡村講師
受講2名

売込み型
鶴川講師
受講3名

講師間MLで
各グループ
進行確認

各受講者の完成企画
を掲示板へ

作成企画

1/1ページ 前のページ 次のページ 最新に更新

- [00006] 東京都新宿区の望月の企画*
- [00004] 福島県(磐梯青年の家:小林の企画)*
- [00003] 千葉県柏市の横田の企画(施設型)*

[00004] 「福島県(磐梯青年の家:小林の企画)」

投稿者 : こばちゃん [2005/01/26 09:44:26]

1. 企画のPR
この企画は、アウトドア経験の少ない青年を対象として、ア
じて キャンプのマナーやスキルの向上を図るとともに、他者と
国立磐梯青年の家周辺のフィールドのポテンシャルを活用
應じました。から作成しました。

2. 受講の感想
野外教育に関係する自分のリテラシー向上のためと思い、メ
ールを使 った講習という初めての体験は、自分の学習ス
テンはタメになることばかりで無料での受講で本当に良いのか
か、ニュースと教育効果とのすりあわせを しっかりしていくべきか
ればざりがありません。この職場での残された期間の企画に

1月13日まで
事務局宛て
各企画提出

個別提出

メーリングリストによるグループ学習

情報共有

● 少人数のグループワーク

- ・ 講師との密接な関係の構築
- ・ 受講者間(2~3人)の情報共有による刺激
(各企画に対する指導の様子がわかる)
- ・ 講師、受講者がじっくりと考えることが出来る
- ・ 講師の負担の限界や状況に応じた展開可能

集中講義の例

平成17年1月20日(木)

9:00~12:00

岡村講師とK受講者との
メーリングリストでのやりとり

時間内に12の質問と回答

質問10・事業期間内のプログラムデザインについてコンテンツの羅列ではなく、コンテンツ同士がコンセプトでつながった形をどうにかして表すことが、カリキュラムであると理解して良いのでしょうか。

回答10・はい結構です。カリキュラムとは、「参加者が教育目標を達成するための体験(活動)の全体的計画」のことです。特に2日目がメインの体験となるわけですが、1日目、3日目も2日目をより価値のあるものにするために、大切にしてください。

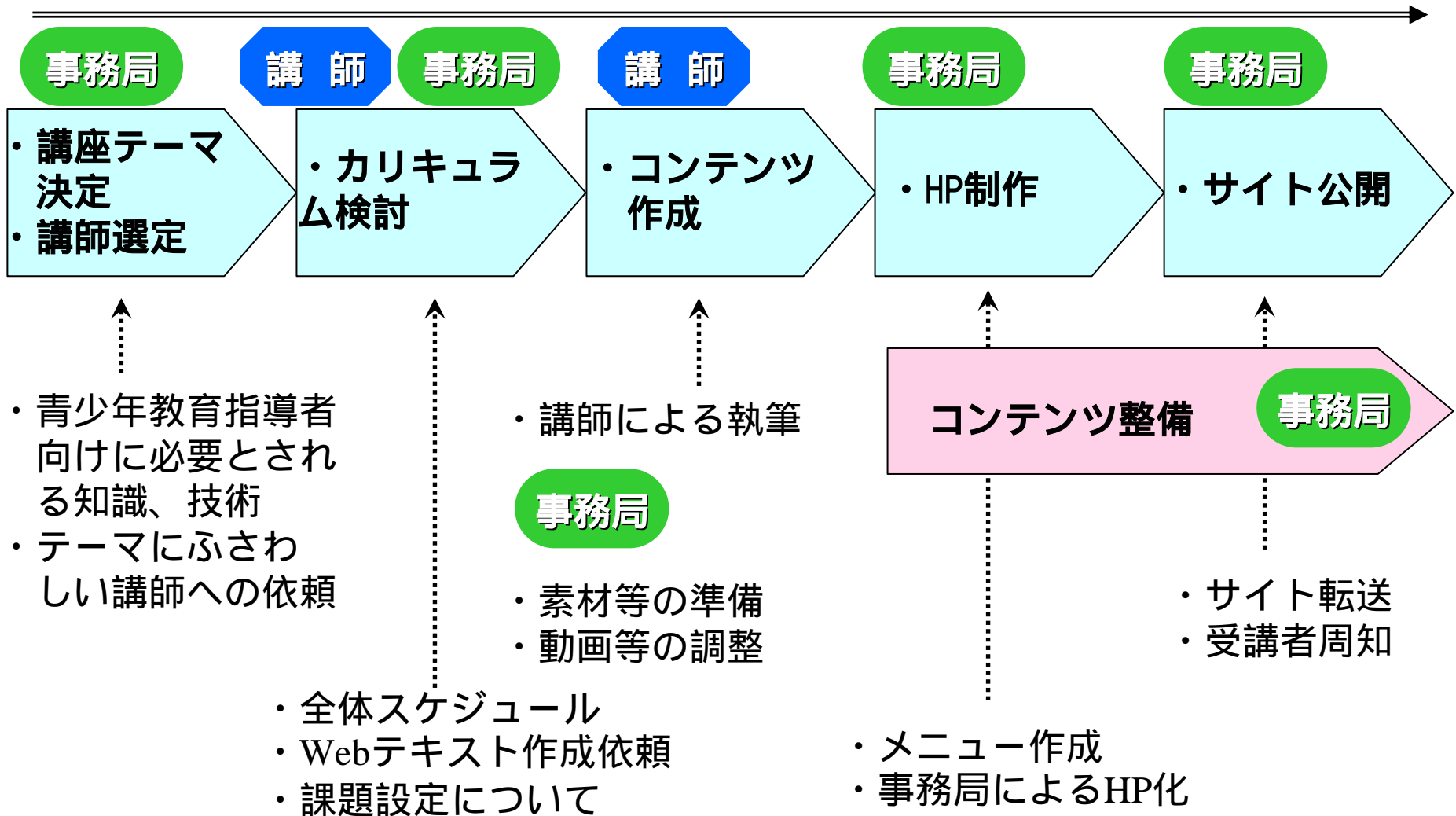
指導過程

グループ内の受講者にも参考となる

教材開発

教材開発の方法

流れ



コンテンツ例

積極的な参加促進
ネチケットの徹底

はじめに

テキスト 3 回程度

課題
と提出方法
期限

読みやすく適度な分量
(作成には著作権留
意)

動画資料

PDF資料

アンケート

テーマごと掲示板

目次

サイエンスサポートセミナー
科学体験支援の指導者研修

NYC Science Support Seminar

研修内容

アンケートにご協力ください

講座のスケジュール
(テキスト、課題、実技)

講師紹介

NYC Science Support Seminar
講師プロフィール

★自己紹介★

■氏名: 古川 和
■職歴: ティーチングキッズ代表
ジャパンGEMS(ジェムズ)センター事務
局長
一橋大学大学院国際企業戦略研究科(講
義) 日本岩体産業大学附属理学部(理科教
育)講師(英語)
■プロフィール
1992年、ティーチングキッズ(Teaching
Kids to Love The Earth)を設立。子ども
の野外教育を始め、学校、企業における
科学学習に基づくクリーニングプログラ
普及を目指し、人間関係・クリーニング、環
境教育、野外教育プログラムの実施、教
員や指導者研修及び研究を行なってい

関連情報リンク集

ニューズレター一覧

受講者アンケート

サイエンスサポートセミナーについてのアンケートにつき、ご協力をお願いします。
今後の参考にさせていただきます。
入力が終わりましたら、画面下の 送信 ボタンをクリックして下さい。

1. プログラムについて
研修全体は、仕事やボランティア活動を通して現在役に立っていますか?
該当するところをチェックしてください。
ともて立っている ある程度立っている
どちらでもない あまり立っていない 全く立っていません
2. 研修がどのように役立っているか具体的に本書きください。
・インターネットによる研修で役立ったこと
・動画(化石圧力)の学習内容が役立った
・子ども指導、サポートするうえで役立った……などの観点でお書きください。

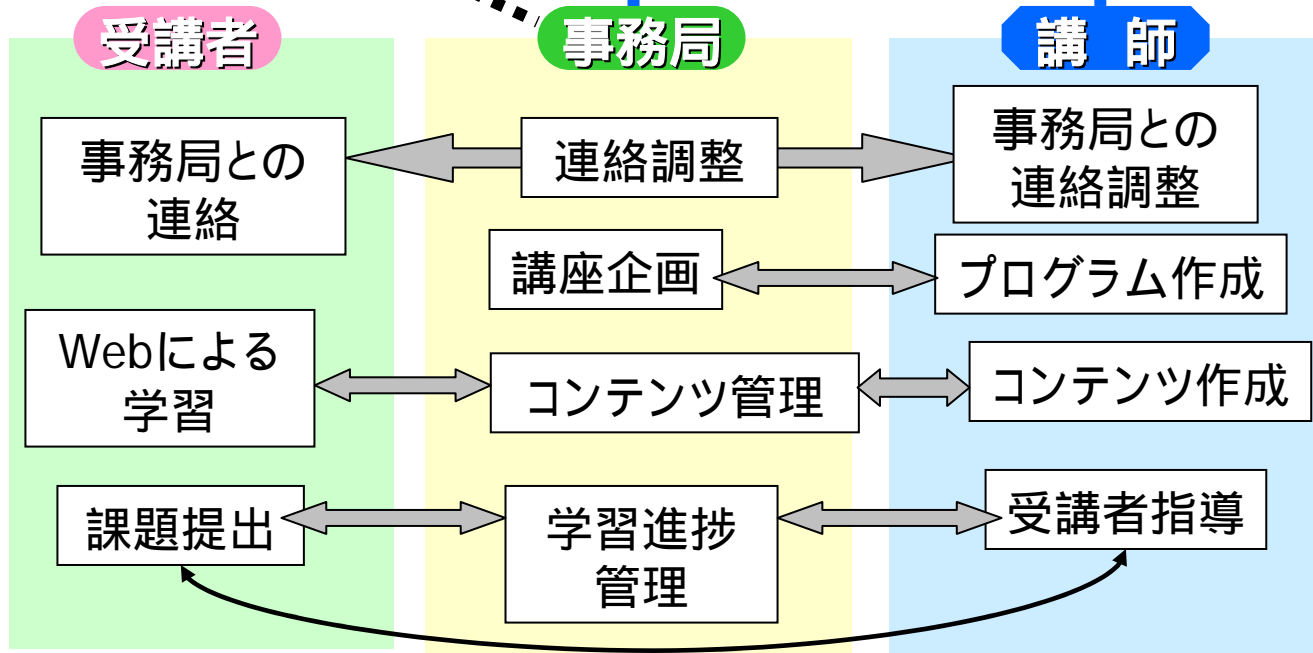
組織体制

担当1名
(企画、メンター、ヘルプデスク)
実技研修担当1名

調査研究協力者会議
(委員6名)

事業検討・分析

受講者
4講座
95名

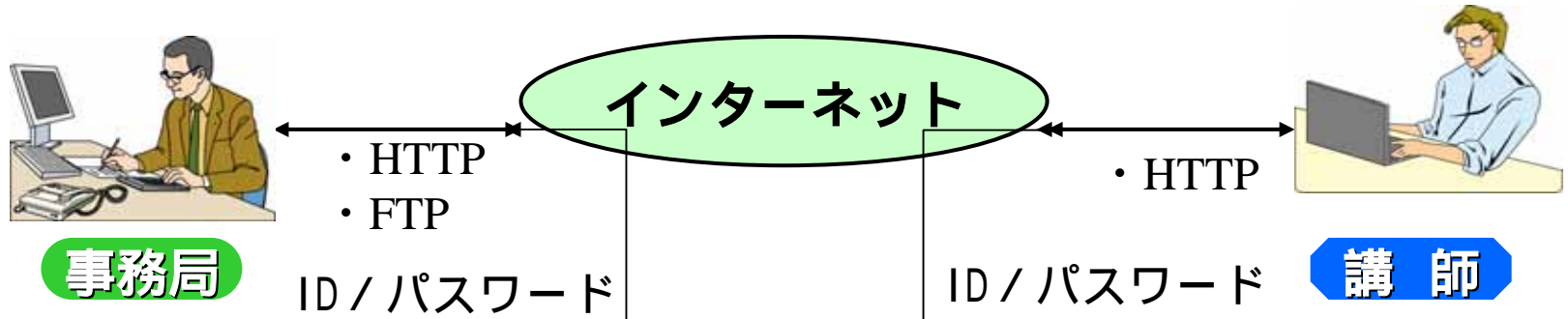


講師
4講座
10名

事務局、受講者、講師とのコミュニケーション

eラーニングシステム
メール、掲示板、メーリングリスト

システム運営のイメージ



- ・ Webでの事務局機能の運営
- ・ FTPでのHP、コンテンツ更新
- (1) 公開ページの更新
 - ・ お知らせ
 - ・ 掲示板管理
- (2) 会員情報の管理
- (3) コンテンツのアップロード
 - ・ 学習スケジュール
 - ・ 新規コンテンツ
 - ・ 課題の提示
- (4) 受講者学習履歴確認 等

- ・ Webでの講師機能の運営
- 受講者へのメール送信機能
- 掲示板へのコメント 等

インターネット市民塾
ASPサービス

事務局業務

事務局 - Microsoft Internet ...

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り >> リンク >>

事務局メニュー

- [利用者管理機能](#)
- [講座管理機能](#)
- [掲示板管理機能](#)
- [受講申込管理機能](#)
- [受講状況照会機能](#)
- [お知らせメール配信機能](#)
- [講座別メール配信機能](#)

メールリングリスト設定・管理

講座企画・運営管理

講師との打ち合わせ
(対面、電話、メール)

コンテンツ管理

新コンテンツ更新・お知らせ等
掲示板への書き込み

学習進捗管理

アクセス確認

URL	回数	アクセス開始日時	最終アクセス日時
/00000012/index.html	47	2004-11-15/10:53	2005-01-27/09:30:30
/00000012/pg001.html	59	2004-12-02/10:29	2005-01-27/09:30:31
/00000012/pg002.html	5	2004-12-02/10:11:10	2005-01-27/09:30:55
/000			81
/000			28

課題提出の催促・確認
未提出者への個別メール
電話による受講者の状況把握

コンピュータに関する相談
PDFダウンロード
動画表示、メールリングリスト等

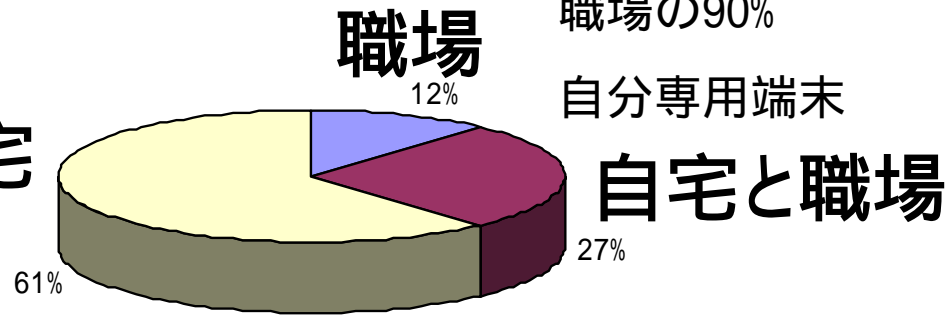


受講状況(サイエンスサポートセミナー)

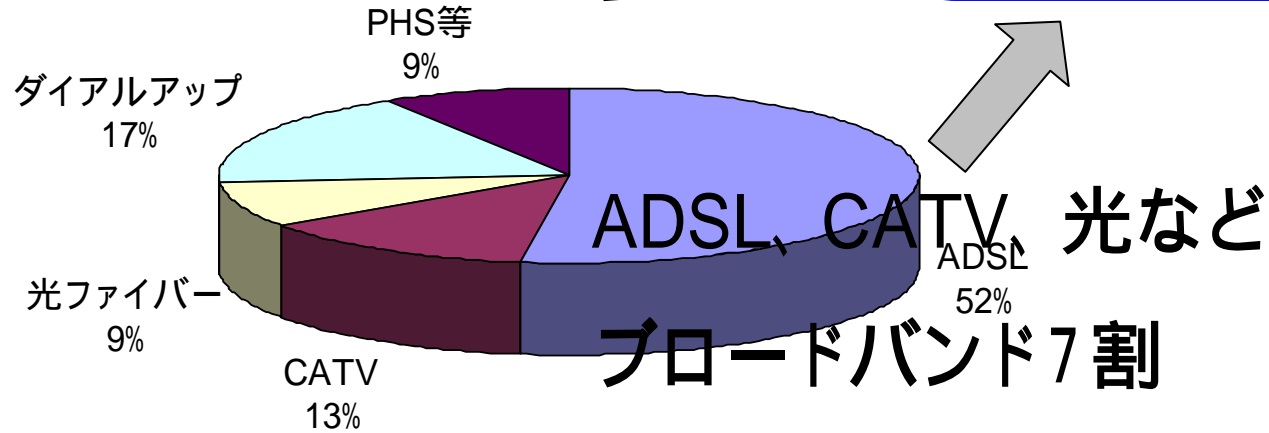
アクセス場所

自宅の
78% 自分専用端末
22% 共有

自宅



自宅の通信環境



学習時間は夜間、休日が多い

事務局の対応必要

受講者のメールのチェック状況

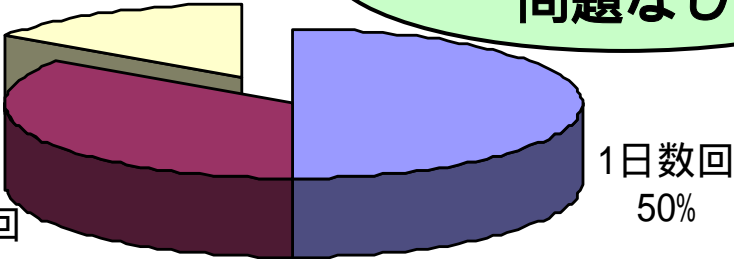
2～3日に1回の層は
適時の連絡が必要

2～3日に1回
15%

1日1回以上は
問題なし

ドロップアウトの原因

1日1回
35%



長期の出張等、不在によるもの

連絡ある場合は事務局でフォロー
課題提出の延期や講師への連絡

パソコンの不調によるもの

事務局から電話連絡するケースが多い
アクセスがない受講者のチェック

学習意欲の喪失 学習内容のレベルが合わない

難しすぎる、簡単すぎる

受講者、グループ代表
掲示板の世話役など
受講者間のコミュニティ
形成が鍵

受講者間のフォロー必要

調査研究のまとめ

2005年
3月に
調査研究
報告書
発行予定

準備中

調査研究の概要

- 1 調査研究の目的
- 2 調査研究の経過

ITを活用した学習の現状

- 1 eラーニングの現状
- 2 学力向上を目指すeラーニング
- 3 生涯学習におけるeラーニングの活用

eラーニングによる効果的な学習の進め方

- 1 学習プログラムの開発方法
- 2 eラーニングを活用した事業運営のポイント
- 3 集合学習とeラーニングの組み合わせ
- 4 学習集団の形成

試行事業の実施結果

- 1 サイエンスサポートセミナー
- 2 青少年教育実践e-研修

青少年教育指導者研修におけるIT活用

- 1 青少年教育指導者に求められる資質
- 2 今後のITを活用した研修事業の在り方
- 3 まとめ

資料 eラーニング講座の企画から実施まで
(財)日本視聴覚教育協会